

電気通信大学 平成18年度シラバス

授業科目名	ヒューマンインターフェース論		
英文授業科目名	Human Interface Science		
開講年度	2006年度	開講年次	
開講学期	前学期	開講コース・課程	博士前期・後期課程
授業の方法		単位数	2
科目区分	情報システム学研究科-情報ネットワーク学専攻-専門科目		
開講学科・専攻	情報ネットワーク学専攻		
担当教官名	出澤 正徳		
居室	I S - 4 2 1		

公開E-Mail	授業関連Webページ
idesawa@is.uec.ac.jp	

【講義の狙い, 目標】
情報システムや機械と人間との関わり合い、特に人間の特性を配慮した情報システムや機械のあり方について考え、ヒューマンインターフェース学の基本的な視座を探る。

【内容】
<p>情報システムが日常生活の中にまで深く浸透し、人間、機械、社会、文化などの中でのコミュニケーションにおいても情報システムの介在が重要な役割を演じるようになり、コミュニケーションにおける情報システムの重要性は益々高まるばかりである。従来の人間と機械間のマン・マシン・インターフェースという枠組では不十分であり、ヒューマンインターフェースと呼ぶ新しい概念で考え直そうとの機運が高まっている。</p> <p>また、その概念は定まっていないが、ヒューマンインターフェース学は単に人間と機械（情報システム）間のみでなく情報システムを介しての人間と人間、人間と社会、人間と文化、さらには異社会間、異文化間などにおけるコミュニケーション（相互理解と相互作用）を円滑化し人間の精神的、物理的、文化的活動を活性化し、正常に発展させ、人類の福祉に貢献してゆくために必要とされる学問として位置づけられる。その正常な発展には人間の精神的特性、生理的特性、物理的特性、さらには社会的特性などに関する理解を深め、それを情報システムの構築に際して反映させてゆくことが肝要となる。</p> <p>本講義では、上記の様な視点から、人間の特性も含め、今後の高度情報化社会において情報システムが種々のコミュニケーションに果たす役割、与える影響（Digital Divide, Digital Degenerationなども含め）とその望ましいあり方を探ってゆく。人間の特性については、特に3次元の環境中で活動する上で不可欠である視覚システムに関し、新発見の3次元錯視現象を利用した視覚のメカニズム解明へ向けての研究動向な</p>

電気通信大学 平成18年度シラバス

ども紹介し、人間の感覚系とヒューマンインターフェースについて考えてゆく。

【教科書，参考書】

教科書は使用しない。講義時に複数の参考書を紹介する。

【予備知識】

特別に必要としない。

【演習】

講義の初めあるいは終わりに小課題を考えてもらう。

【成績評価】

レポートおよび授業時間中に行う小課題等を総合して評価する。

【その他】

関連分野における最新の話題、研究動向にも触れ、参考書等を批判的に読み、自ら考え、学んでゆける能力を養う。